

気づき、考え、実行する さし人つつしん

唐津市立佐志小学校

学校だよりNO.13

令和4年9月26日

文責：校長 松野克己

6の1食育の研究授業



9月22日(木)に6年1組で「からだが喜ぶ食事について考えよう」という食育の研究授業を行いました。この授業は唐津地区学校給食研究部会から佐志小が依頼を受け、谷口先生が授業を引き受けてくれて実施できたものです。授業は谷口先生1人ではなく、鎮西給食センターの宮崎栄養教諭の2人で行いましたので、授業の進め方や役割分担について、夏休みから何度も検討を重ねてきました。その努力が実を結び、この22日の研究授業は「料理の種類や量を考えることで栄養バランスのとれた食生活ができる」という授業のねらいをしっかりとつかませることができました。約30名の先生方に囲まれた中でも、谷口先生はいつもと変わらない落ち着いた様子で授業をしていました。また、子ども達も集中して話を聞き、自分の意見をしっかりと発表できていました。授業後の研究協議会が終わった

後に、給食部会会長の相知小、田中校長先生や県の食育担当である2名の指導主事の方と校長室で話をしました。授業の評価も高かったのですが、それ以上に感心されていたのが6の1の子ども達の様子でした。

「素直」「よく話を聞いている」「グループ活動がスムーズ」「明るく温かい学級の雰囲気を感じる」「まとめやふりかえりをよく書いている」というお褒めの言葉をたくさんいただき、校長として、本当に嬉しい思いをさせてもらいました。実はこの授業に向けて、1週間ほど前に隣の2組で模擬授業をしていました。その時に来られていた指導主事さんからも2組の子ども達の様子を褒めていただき、今回も誇らしい思いをさせてもらいました。まもなく今年度の折り返しとなります。学校を引っ張る最上級生として6年生のみんなには、今の自分たちのよさを改めて認識し、自信をもって小学校生活の締めくくりに結びつけて欲しいと思います。



キッズわくわくワーク おしごと体験フェス2022 inからつ

青年会議所、目的は「唐津に住む子ども達がふるさとを愛し誇り、他者への思いやりをもって未来の夢を描けるようにしたい」という願いから「子ども達に体験型の事業に参加してもらい、子ども達の生き抜く力の醸成と大人の地域協働の意識を向上させる一助とする機会を設ける」ということでした。夏休み前に場所提供についての相談があった際、このねらいに共感し、ご協力することとしました。

唐津市内の小学校4年生以上に80名という定員を設定して募集をかけたところ、定員以上の希望があり、抽選もあったようです。本校

学校の教育活動ではありませんが、9月24日(土)に本校や校区駐車場で大きな催しがあったのでお伝えします。その催しは「キッズわくわくワーク～おしごと体験フェス2022in からつ」というもので、今回初めて行われました。主催は唐津



からも16名もの参加がありました。8つの企業が参加し、子ども達はグループに分かれ、そのうち4つの職業体験をしました。私も見せていただきましたが、どの体験も楽しそうで、学校ではできないキャリア教育として素晴らしい企画でした。若い人の仕事離れが一つの社会問題となっています。こういう機会がもっと増えると、職業観や勤労に対する意識が高まるのではないかと思います。



サッカー関係の体験



陶器づくり体験



放水・乗車体験



バスの運転士体験



味噌づくり体験



いすづくり体験



クッキーづくり体験



いかしゅうまいづくり体験